

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第4項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成27年1月8日
【四半期会計期間】	第77期第2四半期（自平成26年7月1日至平成26年9月30日）
【会社名】	日本プラスチック株式会社
【英訳名】	NIHON PLAST CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 須藤 亘
【本店の所在の場所】	静岡県富士宮市山宮3507番地15
【電話番号】	0544(58)6830（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 斉田 敦
【最寄りの連絡場所】	静岡県富士宮市山宮3507番地15
【電話番号】	0544(58)6830（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 斉田 敦
【縦覧に供する場所】	株式会社 東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 1【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

平成26年11月14日に提出いたしました第77期第2四半期（自平成26年7月1日 至平成26年9月30日）四半期報告書の記載事項の一部に誤りがありましたので、これを訂正するため、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

## 2【訂正事項】

第一部 企業情報

第2 事業の状況

3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

(1) 業績の状況

(2) キャッシュ・フローの状況

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

## 3【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_\_\_\_を付して表示しております。

### 第一部【企業情報】

#### 第2【事業の状況】

##### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

（訂正前）

<省略>

このような状況の中、当第2四半期連結累計期間における売上高は、国内得意先の減産はあったものの、北米得意先の増産影響及び為替換算による売上高の増加影響などにより前年同期比4.3%増の58,314百万円となりました。損益面では、増収影響により営業利益は前年同期比48.8%増の1,506百万円となりました。また、為替差益の影響等により経常利益は前年同期比24.7%増の1,605百万円、四半期純利益は前年同期比0.2%減の929百万円となりました。

<省略>

（訂正後）

<省略>

このような状況の中、当第2四半期連結累計期間における売上高は、国内得意先の減産はあったものの、北米得意先の増産影響及び為替換算による売上高の増加影響などにより前年同期比4.3%増の58,314百万円となりました。損益面では、増収の影響に加え、合理化効果、有形固定資産の減価償却方法の変更及び当第2四半期連結会計期間から新連結会計システムの導入により、客観的かつ確実なロイヤリティ計上が可能となり、当社と連結子会社との間におけるロイヤリティの授受に係る期間が一時的に増加したことによる利益の計上により営業利益は前年同期比48.8%増の1,506百万円となりました。また、為替差益の影響等により経常利益は前年同期比24.7%増の1,605百万円、四半期純利益は前年同期比0.2%減の929百万円となりました。

<省略>

(2) キャッシュ・フローの状況

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

（訂正前）

営業活動の結果獲得した資金は2,019百万円（前年同期は205百万円の使用）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益1,605百万円をはじめ、棚卸資産の増加2,264百万円、売上債権の減少1,904百万円、減価償却費1,803百万円等の資金増加要因が仕入債務の減少額4,083百万円等の資金減少要因を上回ったことによるものであります。

（訂正後）

営業活動の結果獲得した資金は2,019百万円（前年同期は205百万円の使用）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益1,605百万円をはじめ、棚卸資産の減少2,264百万円、売上債権の減少1,904百万円、減価償却費1,803百万円等の資金増加要因が仕入債務の減少額4,083百万円等の資金減少要因を上回ったことによるものであります。